

# さがみはら産業創造センターと大学との連携

## ■ 連携している団体等の名称

市内大学（女子美術大学、青山学院大学、職業能力開発総合大学校など）  
市外大学（神奈川工科大学、玉川大学など）  
さがみはら産業創造センター  
相模原市

## ■ 代表団体の連絡先

(株)さがみはら産業創造センター  
電話 042-770-9119

Eメール sic@sssc.co.jp  
ホームページ <http://www.sssc.co.jp/>



## 事業の目的

地域企業と大学の連携により、研究開発の促進や技術課題の解決などによる技術力の向上、デザイン開発・販路開拓の支援などを行っています。

また、大学生・大学院生を対象に、企業経営に関する知識の習得やプロジェクトの経験を通じ、産業界で活躍できる人材の育成を図っています。

## 事業の概要

- ① 女子美術大学との連携による事業の実施
  - ・ ヒューマンデザイン開発支援事業の実施
- ② 職業能力開発総合大学校との連携による事業の実施
  - ・ 技術セミナーの実施
  - ・ SIC新技術創造研究会の開催
- ③ 地域企業のニーズ及び大学の研究シーズの発掘
- ④ SICビジネススクールの実施(人材教育事業)

大学生・大学院生を対象に、プロジェクトの企画・運営や起業家との交流を通じ、「ビジネスの本当の厳しさ」「チームで仕事をやり遂げる楽しさ」を体験できる事業を行っています。

## 今後の課題・展望

- ・地域企業と大学とのマッチングによる地域産業の活性化
- ・地域における起業家教育の広がり

# 首都圏南西地域産業活性化フォーラム

## ■ 連携している団体等の名称

首都圏南西地域産業活性化フォーラム運営委員会  
(地域企業、青山学院大学、職業能力開発総合大学校、神奈川工科大学、玉川大学、  
横浜銀行、八千代銀行)  
関東経済産業局、神奈川県相模原商工労働センター、  
神奈川県産業技術総合研究所、TAMA産業活性化協会、  
相模原商工会議所、町田商工会議所、(株)さがみはら産業創造センター、  
(財)相模原市産業振興財団、町田市、相模原市

## ■ 代表団体の連絡先

事務局：相模原市経済部産業振興課 担当 浜田、米多、濱端  
電話 042-769-8237  
Eメール in-pro03@city.sagamihara.kanagawa.jp  
ホームページ <http://nansei.ssz.or.jp/>

### 事業の目的

『首都圏南西地域産業活性化フォーラム』は、相模原・町田を中心として県央・津久井にまたがる地域の企業・大学・支援機関などが一堂に集い、有益な情報提供や交流会などを実施することにより、広域なエリアで強固なネットワークを構築し、産学連携をはじめとして様々なビジネスの機会の創出を目指して開催しております。

### 事業の概要

#### ◆フォーラムでの情報提供

- ①大学・企業による産学連携の事例発表
- ②研究者による中小企業者に関心の高いテーマでの講演
- ③支援機関による各種支援情報の提供

#### ◆産学公の交流の場の提供

- ①ポスター・パンフレット等の展示によるPRの場の提供
- ②1分間スピーチによるPRの場の提供
- ③交流会による参加者の交流・情報交換の場の提供

#### ◆分科会

本フォーラムに参画する大学や支援機関が主体となり、より専門的な研究テーマを題材とした分科会を随時開催しています。分科会では、フォーラム参加者の興味ある様々なテーマを取り上げ、少人数の勉強会形式で実施しています。

### 今後の課題・展望

- ・ 産学連携の裾野を広げていく取り組みの必要性
- ・ 数多くの成功事例を生み出すことの重要性

# 相模原・町田大学地域連携方策研究会

## ■ 連携している団体等の名称

青山学院大学、麻布大学、和泉短期大学、桜美林大学、北里大学、国土舘大学、相模女子大学・短期大学部、職業能力開発総合大学校、女子美術大学、玉川大学、多摩美術大学、東京家政学院大学、東京工業大学、東京女学館大学、東京田中短期大学、法政大学、和光大学、和泉福祉専門学校、首都圏西部単位互換協定会、NPO法人相模原エスティアート、NPO法人さがみはら市民会議、NPO法人CCCNET、まちだNPO法人連合会、(株)さがみはら産業創造センター、相模原商工会議所、相模原市、町田市

## ■ 代表団体の連絡先

ホームページ <http://www.jouhou.org>

相模原市 パートナーシップ推進課

電話 042-769-9225

Eメール [partnership@city.sagamihara.kanagawa.jp](mailto:partnership@city.sagamihara.kanagawa.jp)

町田市 企画調整課

電話 042-724-2103

Eメール [kikaku\\_m@city.machida.tokyo.jp](mailto:kikaku_m@city.machida.tokyo.jp)



麻布大学 親と子の河川環境セミナー

### 事業の目的

大学の知的資産を大学や市民との協働により、地域に還元するとともに、市民の学習意欲に応え、市民が成果を生かすことにより、相模原・町田地域の活性化を図るため、大学と地域を結ぶコーディネートとしての仕組みとして、大学・地域連携プラットフォームの構築について検討を行っています。

### 事業の概要

大学と市民によるまちづくりを活性化するため、大学の公開講座や地域を題材とした研究等の情報を一元的に発信するとともに、大学教員や学生とNPO・市民の連携による学習支援やまちづくり活動のモデル事業を実施しています。

#### 情報発信プロジェクト

##### ①ホームページによる情報発信

より機能的で親しみの持てるサイトを目指してコンテンツやデザインの見直しを行いながら、大学等の最新情報を掲載しています。

##### ②情報紙の発行

大学等の公開講座や学園祭情報などをテーマに年2回発行しています。

#### モデルプロジェクト

文部科学省生涯学習まちづくり支援事業を活用し、大学から提案された地域と大学との連携を深めるモデルプロジェクトを実施しています。

#### モデルプロジェクトの様子(平成15・16年度)



多摩美術大学 橋本アートタウンプロジェクト



桜美林大学 演劇体験講座



女子美術大学 アートワークショップ

# 市民シンポジウム：LOVE YOUR TOWN

## ■ 連携している団体等の名称

市民シンポジウム実行委員会

相模原市（さがみはら都市みらい研究所・パートナーシップ推進課）

## ■ 代表団体の連絡先

代表：市民シンポジウム実行委員会

HP：<http://sagamihara50.dip.jp/>

Eメール：[loveyourtown@sagamihara50.dip.jp](mailto:loveyourtown@sagamihara50.dip.jp)



上・icon-tact  
左・実行委員メンバー  
中・ステージ風景

## 事業の目的

この実行委員会は市制50周年記念事業として開催された市民シンポジウムの企画・運営を行う組織で、公募で集まった市内の大学生で構成されています。また、シンポジウムで発表を行った政策提言者も大学生です。

市民シンポジウムは、大学生の視点から見る新しい相模原のビジョンを当日、来場した市民の方々と共に考えていくことを事業の狙いとしていました。さらに、この様な進取の気性に富んだ活動が市に広がっていくことを願っています。

## 事業の概要

2004年12月5日に「杜のホールはしもと」で市民シンポジウム：LOVE YOUR TOWNが開催されました。

実行委員会の活動期間は約一年で、当日に向けて、提言者と市職員の方が意見交換をする学習会、当日ステージで発表する団体を決める選考会、様々な場所でのPR活動、そして下記に記されているアートイベントのワークショップ等をおこなってきました。

シンポジウムの第一部では、馬と触れ合える環境作りと題し、乗馬による身体的・精神的効果の研究から、人社会での馬の新たな役割を構築する取り組みや、多くの劇場がある相模原に着目し、舞台芸術を活用した文化の街づくりなど、麻布大学、桜美林大学、横浜国立大学、明治大学の4大学・6組から政策が提言され、会場からは積極的な意見や質問がでていました。

第二部の次世代トークセッションでは、相模原を舞台に男女2人が繰り広げるドラマの進行に併せて、相模原に関するデータなどがスクリーンに提示され、学生からの本音と会場からの意見が活発に交わされ、会場との一体感が感じられました。

また、「杜のホールはしもと」がある「ミウヰ橋本」の5階インナーガーデンでは、併設企画として「icon-tact～つながりの道標～」という参加型アートイベントを開催しました。このプロジェクトは、壁面に吊るされた大きな相模原の地図の上で、自宅と自分の好きな場所を赤い糸でつないで表示することで、市民どうしの繋がりが視覚的に表現されるといもので、美大生が中心となって行われました。

これらのシンポジウムなどの事業を通じて、相模原の現状や新しい魅力を表すことができ、当日のアンケートでも高い評価をいただきました。

## 今後の課題・展望

今回の実行委員会は、このシンポジウムを通した一連のイベントを終え、解散することになりますが、学生が市の事業に参加することによって、今後、まちづくりなどに一層関心を持ち、さらに活動が広がる可能性も高く、市にとっても素晴らしい人材育成の場になるといいますので、このような機会をぜひ継続して欲しいと思います。

また、当日、学生が投げかけた政策提言についても、ぜひ相模原市に反映して欲しいと思います。

# 市長タウンミーティング

## ■ 連携している団体等の名称

青山学院大学 麻布大学 和泉短期大学  
桜美林大学 北里大学 相模女子大学  
職業能力開発総合大学校 女子美術大学  
市民シンポジウム実行委員会 相模原市



麻布大学



職業能力開発総合大学校



和泉短期大学

## ■ 代表団体の連絡先

さがみはら都市みらい研究所  
電話 042-769-9224  
Eメール [surv@city.sagamihara.kanagawa.jp](mailto:surv@city.sagamihara.kanagawa.jp)

パートナーシップ推進課  
電話 042-769-9225  
Eメール [partnership@city.sagamihara.kanagawa.jp](mailto:partnership@city.sagamihara.kanagawa.jp)  
ホームページ <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>

### 事業の目的

市内にキャンパスのある8大学を会場として、各大学の企画・運営により、市長と大学生が直接、市政やまちづくりについて語り合う機会として開催されました。

### 事業の概要

各大学ごとに次のようなテーマで開催。(開催順)

麻布大学 4月27日(火) 14:00～17:00  
テーマ 「動物・いのち・環境」  
参加者 540名



桜美林大学

職業能力開発総合大学校 4月29日(木) 10:00～12:00  
テーマ 「留学生の学ぶ街 さがみはら」  
参加者 77名



青山学院大学

和泉短期大学 5月8日(土) 10:00～12:00  
テーマ 「乳幼児の福祉・保育」  
参加者 61名



女子美術大学

桜美林大学 5月8日(土) 14:00～17:00  
テーマ 「新しい扉～国際と芸術文化から～」  
参加者 83名



北里大学

青山学院大学 5月12日(水) 15:00～16:00  
テーマ 「淵野辺のまちづくりー市長と学生との対話」  
参加者 58名



相模女子大学

女子美術大学 5月13日(木) 14:30～16:30  
テーマ 「美しく安全な街について」  
参加者 62名

北里大学 5月15日(土) 14:00～17:00  
テーマ 「健康な社会へのアプローチ」  
参加者 82名

相模女子大学 5月22日(土) 10:00～12:00  
テーマ 「食ー知っているようで、知らない相模原市」  
参加者 59名

## ☆銀河祭りでのごみ分別～小学校・大学・地域～

### ■ 連携している団体等の名称

麻布大学環境政策学科 サークル「じ～な」  
ふちのべ商店街のみなさま  
淵野辺小学校の先生と児童  
大野北小学校の先生と児童



### ■ 代表団体の連絡先

麻布大学  
〒229-8501  
相模原市淵野辺1丁目17番地71号

### 事業の目的

子どもや市民と一緒にごみ分別回収ボランティアを楽しくやることで仲良くなる。ごみ分別回収を呼びかけることで、お祭りのごみを減らし、資源をリサイクルする。子どもたちや来場者に、エコ容器やリサイクルを学ぶだけでなく、分別活動を通して何かを感じてもらう。

### 事業の概要

2003年7月の第15回ふちのべ銀河まつりに引き続き、2004年8月の第16回ふちのべ銀河祭りでも大学生が商店街と連携し、子どもや市民と一緒にごみ分別回収を行った。

ふちのべ銀河祭りには、麻布大学、青山学院大学、桜美林大学の学生が準備や片づけ、模擬店やパフォーマンスなどで大勢参加したが、じ～なは、エコ容器の選定やごみ分別回収を担当した。

分別回収で子どもたちは、にっこり笑って「ラベルとってください」と呼びかけて、来場者をメロメロにした。昨年も参加してくれた大野北小の6年生は、福祉団体に寄付するためにアルミ缶を分別回収した。昨年の体験が主体的な行動となった。

小学生たちは、11月の麻布大学祭でもごみ分別ボランティアとして参加した。子どもと大学生は一緒に学び、絆を深めた。

### 今後の課題

麻布大学9号館を拠点とし、大学全体、そして地域へと分別の意識を高めてもらうべく新たなことにチャレンジする。子どもたちとのつながりをさらに深めて、もっと交流したい。

# 相模原市地域福祉計画策定事業

## ■ 連携している団体等の名称

(事務局運営) 市保健福祉部地域福祉課、市社会福祉協議会  
(計画策定委員会) 公募、市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会、市自治会連合会、市民生委員児童委員協議会、市児童館連絡協議会、市私立保育園園長会、市老人クラブ連合会、市高齢者福祉施設協議会、市障害児者福祉団体連絡協議会、市障害者地域作業所等連絡協議会、市社会福祉法人経営者協議会、相模原ボランティア協会、相模原保育サポートポップくらぶ、ワーカーズ・コレクティブ・ベル、さがみはら市民会議、市市民健康づくり運動普及員連絡会、市医師会、市公立小学校校長会、市立中学校校長会、市公民館連絡協議会、相模原商工会議所、相模原青年会議所、学識経験者

## ■ 代表団体の連絡先

市保健福祉部地域福祉課  
住 所 相模原市中央2-11-15  
電 話 769-9222  
FAX 759-4395  
Eメール  
chiikifukushi-2@city.sagamihara.kanagawa.jp  
ホームページ  
<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>



策定委員会主催によるタウンミーティング

### 事業の目的

誰もが住み慣れた家庭や地域で安心して暮らしていくため、制度によるサービスを利用しながら、地域での人と人とのつながりを大切に、支えあいの関係を築いて、地域全体を明るく元気にしていく取り組みを進めるために計画を策定します。

### 事業の概要

平成12年の社会福祉法の改正などを受け、平成14年度から参加と協働を基調とした計画づくりに取り組み、本年3月に計画を決定する予定です。

これまで、シンポジウム、タウンミーティング、ワークショップ、地域別説明会など多様な機会を設け、多くの市民の方々の参加とご意見をいただくことができました。現在あるいは5年後10年後の生活を考えたときに不安を感じるとの声も多く頂きました。

計画では、『わたしたちで支えあう 福祉のまちをめざして』を基本理念とし、地域全体で支えあう社会の構築をめざしています。また、地域での実践を通じた地域福祉の推進が大切と考え、重点的な取り組みとして「福祉コミュニティ形成モデル事業～支えあいの地域づくり～」や「福祉活動支援システムの構築～人づくりと活動の支援～」を掲げています。

### 今後の課題・展望

計画の推進に向けては、一人ひとりができることから主体的に参加し行動することが必要であり、そのコーディネートなどを行う人材育成も重要です。また、市社会福祉協議会等との連携を図るとともに、計画づくりに続き、実施や評価の段階でも、市民参加とパートナーシップにより進めたいと考えています。さらに、地域全体で取り組むため、地域における福祉課題の発見・共有・解決の仕組みづくりが求められます。

# 県道54号（相模原・愛川）における TDM（交通需要マネジメント）推進事業

## ■ 連携している団体等の名称

都市交通計画課  
都市計画課  
土木計画課  
パートナーシップ推進課  
NPO法人 東京ランポ



## ■ 代表団体の連絡先

相模原市 都市交通計画課  
電話 042-769-8249

Eメール toshikoutsu@city.sagamihara.kanagawa.jp

ホームページ <http://info.city.sagamihara.kanagawa.jp/Files/1/801202/html/top1.htm>

## 事業の目的

県道54号（相模原・愛川）は通勤時間帯の著しい渋滞により、道路機能の低下、住宅街や通学路が抜け道として利用されることによる交通安全の問題、自動車走行速度低下による大気汚染の悪化など、多くの問題を抱えている。

このため、当該道路におけるTDM（交通需要マネジメント）の実現に向け、道路利用者や周辺住民等からなるワークショップを設置し、渋滞緩和に向けた取り組みを進めている。

## 事業の概要

平成13年度に策定された「相模原市総合都市交通計画」の中の「TDM基本計画」に基づき、当該道路について具体的な検討を進めており、平成15・16年度においては、市民参画の「ワークショップ」の手法により、道路利用者や周辺住民等の協力を得ながら、当該道路にふさわしいTDM施策の検討を行っている。

また、立案された施策については、その効果や実現性を高めるため、学識経験者や国土交通省、神奈川県などからなる「TDM推進委員会」を設置し、「ワークショップ」と連携を図りながら検討を進めている。

## 今後の課題・展望

ワークショップなどにより抽出されたTDM施策のいくつかについて、その効果や実現性を確認するために、平成17年度に「社会実験」を予定している。

「社会実験」で得られた結果については、今後、愛川線や他の課題地区においてTDM施策を推進していく際のデータとして活用していく。



# 旭町街区公園ワークショップ

## ■ 連携している団体等の名称

- ・旭自治会
- ・女子美術大学
- ・特定非営利活動法人 東京ランポ

## ■ 代表団体の連絡先

旭自治会 中村 洋子 会長



## 事業の目的

街区公園は、周辺にお住まいの方々の憩やコミュニケーションの場となることから、整備計画の策定については、地域の方々が中心となって住民参加によるワークショップ形式で行い、利用しやすく愛着のある公園整備を行う。

## 事業の概要

ワークショップ形式による計画づくりを行うにあたり、地元自治会や子供会の皆様等に協力をお願いして、ワークショップのメンバーを募集しました。公園整備は平成18年度に行われるため、平成16年度は、コンセプトづくり、平成17年度は整備計画の策定を行うこととして進めています。

コンセプトづくりは平成16年2月の第1回ワークショップから始まり、平成16年9月の第8回までにまとめることができました。ワークショップでは、近くの公園探検や、ネイチャーゲームで整備する公園の自然の再発見などを行いました。その結果、地面と樹木は今のままで、自然を生かした公園がよいということになりました。

今後は平成17年4月から約半年間でコンセプトを具体化する整備計画案を考えていく予定です。

## 課題・展望

コンセプトづくりの段階では、旭自治会長にファシリテーター役をはじめ、当日の準備から資料作成・まとめまで全ての作業をお願いしましたが、今後の整備計画策定では、資料準備やまとめの作業量が多くなるため、ワークショップの組織化を図り、メンバーで役割分担を行うなど円滑な運営を図っていきたいと考えています。

# 大野南地区こどもセンターこどもワークショップ

## ■ 連携している団体等の名称

大野南地区子ども会連合会  
大野南地区こどもセンターこどもワークショップ

## ■ 代表団体の連絡先

相模原市 保健福祉部 子育て支援課  
電話 042-769-9227

Eメール kosodate@city.sagamihara.kanagawa.jp  
ホームページ <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>



## 事業の目的

新たに建設される大野南地区こどもセンターで、どのような遊び方ができるか、どのような遊び道具が必要かなどについて、子どもたちが、他地域のこどもセンターの見学などを通して、アイデアを発展させ、自分たちの意見をまとめていく場とする。小学生を中心に、中学生・高校生の参加も募っている。

## 事業の概要

- ①他地域のこどもセンターの見学(相武台こどもセンター、町田ばぁんなど)
- ②こどもセンター建設予定地を調べる(施設の環境とイメージを体験する)
- ③遊具などの選定案の作成(どのような遊具が必要かを話し合う)
- ④建設委員会との交流(どのようなこどもセンターにしたいのかなどについて意見交換する)

## 今後の課題・展望

こどもワークショップの企画・運営は、地域の子ども会育成会関係者や女子美術大学の学生が中心となっ  
て行っているが、今後、中学生や高校生を含めた子どもたちも企画・運営に参加してもらい、地域の子ども  
たちが広くこどもセンターを利用できるような環境を整えていきたい。

